

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年8月7日

【四半期会計期間】 第90期第1四半期(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

【会社名】 前田道路株式会社

【英訳名】 MAEDA ROAD CONSTRUCTION CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 磯 昭 男

【本店の所在の場所】 東京都品川区大崎1丁目11番3号

【電話番号】 03(5487)0011(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理部長 岡 山 昇 平

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区大崎1丁目11番3号

【電話番号】 03(5487)0011(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理部長 岡 山 昇 平

【縦覧に供する場所】 前田道路株式会社 西関東支店
(横浜市中区不老町3丁目12番5号)

前田道路株式会社 中部支店
(名古屋市中区栄5丁目25番25号)

前田道路株式会社 関西支店
(大阪市中央区久太郎町2丁目5番30号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第89期 第1四半期 連結累計期間	第90期 第1四半期 連結累計期間	第89期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	44,177	46,993	230,104
経常利益 (百万円)	1,986	2,469	20,800
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,292	1,461	12,566
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	2,184	2,638	14,866
純資産額 (百万円)	141,826	150,192	150,154
総資産額 (百万円)	186,758	199,702	215,606
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	14.98	16.95	145.71
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	75.8	75.1	69.5

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていない。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載していない。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はない。

また、主要な関係会社についても異動はない。

第2 【事業の状況】

「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示している。

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当グループが判断したものである。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間の当グループを取り巻く環境は、政府による経済財政政策等の効果により、公共投資は堅調に推移し、また企業の設備投資は増加しているものの、中東情勢の混乱等による原材料価格の高騰や人手不足による労務費の高騰など、依然として厳しい状況で推移した。

このような情勢のもと、当グループは建設事業においては民間発注工事の受注確保に努め、製造・販売事業においては、建設廃棄物のリサイクルなどの循環型事業に継続的に取り組むことにより、販売数量の確保と採算性の維持に努めてきた。

当第1四半期連結累計期間の受注高は548億2千9百万円（前年同期比4.3%増）、売上高は469億9千3百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は21億3千3百万円（前年同期比40.9%増）となった。また、受取配当金及び貸倒引当金戻入額等の影響により経常利益が24億6千9百万円（前年同期比24.3%増）、固定資産除却損及び法人税等の影響により四半期純利益は14億6千1百万円（前年同期比13.1%増）となった。

なお、当グループは、連結会計年度の売上高における下半期の売上高の割合が大きくなるといった季節的変動がある。

セグメントの業績を示すと、次のとおりである。

（建設事業）

建設事業の当第1四半期連結累計期間の受注工事高は375億3千2百万円（前年同期比5.8%増）、完成工事高は295億5千4百万円（前年同期比9.6%増）となり、営業利益は13億4千9百万円（前年同期比54.2%増）となった。

（製造・販売事業）

製造・販売事業の当第1四半期連結累計期間のアスファルト合材及びその他製品売上高は172億9千6百万円（前年同期比1.3%増）となり、営業利益は17億6千6百万円（前年同期比7.2%増）となった。

（その他）

当第1四半期連結累計期間のその他売上高は1億4千2百万円（前年同期比1.2%減）となり、6百万円の営業損失（前年同期6百万円の損失）となった。

(2) 財政状態の分析

資産の部

流動資産は、前連結会計年度末に比べ171億6千6百万円減少し、1,080億1千万円となった。これは主に、回収による受取手形・完成工事未収入金等の減少によるものである。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ12億6千1百万円増加し、916億9千1百万円となった。これは主に、時価の上昇に伴う投資有価証券の増加によるものである。

以上の結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ159億4百万円減少し、1,997億2百万円となった。

負債の部

流動負債は、前連結会計年度末に比べ159億9千6百万円減少し、325億4千7百万円となった。これは主に、支払いによる支払手形・工事未払金等の減少及び納税による未払法人税等の減少によるものである。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ5千4百万円の増加と著しい変動はなく、169億6千2百万円となった。

以上の結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ159億4千1百万円減少し、495億1千万円となった。

純資産の部

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ3千7百万円の増加と著しい変動はなく、1,501億9千2百万円となった。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はない。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は1億2千6百万円である。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	193,000,000
計	193,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年8月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	94,159,453	94,159,453	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株である。
計	94,159,453	94,159,453		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成26年4月1日～ 平成26年6月30日		94,159,453		19,350		23,006

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,685,000		
	(相互保有株式) 普通株式 597,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 85,354,000	85,354	
単元未満株式	普通株式 523,453		
発行済株式総数	94,159,453		
総株主の議決権		85,354	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、次の株式数が含まれている。

(1) 自己保有株式数

前田道路株式会社所有 837株

(2) 相互保有株式数

東海アスコン株式会社所有 105株

【自己株式等】

平成26年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 前田道路株式会社	東京都品川区大崎 1丁目11番3号	7,685,000		7,685,000	8.16
(相互保有株式) 東海アスコン株式会社	愛知県豊橋市石巻平野町 字日名倉37番地	497,000		497,000	0.53
(相互保有株式) 双和産業株式会社	長野県松本市小屋南 2丁目19番5号	100,000		100,000	0.11
計		8,282,000		8,282,000	8.80

2 【役員の状況】

該当事項なし。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けている。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年 6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	21,232	22,235
受取手形・完成工事未収入金等	51,482	31,826
有価証券	36,333	36,333
未成工事支出金等	4,126	6,779
その他	12,395	11,089
貸倒引当金	392	253
流動資産合計	125,176	108,010
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物（純額）	12,715	12,501
機械・運搬具（純額）	13,750	12,820
土地	41,899	42,052
その他（純額）	1,376	2,046
有形固定資産合計	69,741	69,421
無形固定資産	1,465	1,399
投資その他の資産		
投資有価証券	13,482	15,166
その他	5,818	5,780
貸倒引当金	78	75
投資その他の資産合計	19,222	20,871
固定資産合計	90,429	91,691
資産合計	215,606	199,702
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	29,799	21,523
未払法人税等	6,101	133
未成工事受入金	2,206	3,055
賞与引当金	3,040	1,487
引当金	602	542
その他	6,793	5,805
流動負債合計	48,543	32,547
固定負債		
退職給付に係る負債	16,226	16,278
その他	681	683
固定負債合計	16,908	16,962
負債合計	65,451	49,510

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	19,350	19,350
資本剰余金	23,086	23,086
利益剰余金	113,343	112,210
自己株式	4,542	4,546
株主資本合計	151,238	150,101
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,046	4,048
為替換算調整勘定	127	133
退職給付に係る調整累計額	4,308	4,134
その他の包括利益累計額合計	1,389	218
少数株主持分	305	308
純資産合計	150,154	150,192
負債純資産合計	215,606	199,702

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
売上高	44,177	46,993
売上原価	40,181	42,442
売上総利益	3,996	4,551
販売費及び一般管理費	2,481	2,417
営業利益	1,514	2,133
営業外収益		
受取利息	24	11
受取配当金	110	115
為替差益	96	-
貸倒引当金戻入額	107	167
その他	145	69
営業外収益合計	484	362
営業外費用		
為替差損	-	16
その他	12	11
営業外費用合計	12	27
経常利益	1,986	2,469
特別利益		
固定資産売却益	8	3
投資有価証券売却益	29	23
収用補償金	45	-
その他	0	1
特別利益合計	84	28
特別損失		
固定資産除却損	11	118
その他	6	-
特別損失合計	18	118
税金等調整前四半期純利益	2,052	2,379
法人税等	758	911
少数株主損益調整前四半期純利益	1,294	1,467
少数株主利益	1	6
四半期純利益	1,292	1,461

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,294	1,467
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	879	1,001
為替換算調整勘定	10	5
退職給付に係る調整額	-	174
その他の包括利益合計	890	1,170
四半期包括利益	2,184	2,638
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,180	2,632
少数株主に係る四半期包括利益	4	6

【注記事項】

(会計方針の変更等)

(会計方針の変更)

・退職給付に係る会計処理の方法

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて当第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更している。

これによる四半期連結財務諸表に与える影響はない。

(四半期連結貸借対照表関係)

受取手形裏書譲渡高

前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
14,350百万円	14,911百万円

(四半期連結損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

当グループは、連結会計年度の売上高における下半期の売上高の割合が大きくなるといった季節的変動がある。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
減価償却費(のれんの償却額を除く)	1,527百万円	1,628百万円
のれんの償却額	49	50
負ののれんの償却額	20	

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,162	25	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項なし。

当第1四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	2,594	30	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの
該当事項なし。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	建設事業	製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	26,961	17,071	44,033	144	44,177		44,177
セグメント間の内部売上高 又は振替高		5,986	5,986	133	6,120	6,120	
計	26,961	23,058	50,019	277	50,297	6,120	44,177
セグメント利益又は損失()	875	1,647	2,522	6	2,515	1,000	1,514

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、リース業務、保険代理業務及びコンサルタント業務等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額 1,000百万円には、セグメント間取引消去14百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,015百万円が含まれている。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	建設事業	製造・ 販売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	29,554	17,296	46,851	142	46,993		46,993
セグメント間の内部売上高 又は振替高		6,144	6,144	124	6,268	6,268	
計	29,554	23,440	52,995	266	53,262	6,268	46,993
セグメント利益又は損失()	1,349	1,766	3,116	6	3,109	975	2,133

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、リース業務、保険代理業務及びコンサルタント業務等を含んでいる。

2 セグメント利益の調整額 975百万円には、セグメント間取引消去17百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 992百万円が含まれている。なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費である。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、次のとおりである。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年6月30日)
1株当たり四半期純利益	14.98円	16.95円
(算定上の基礎)		
四半期純利益 (百万円)	1,292	1,461
普通株式に係る四半期純利益 (百万円)	1,292	1,461
普通株式の期中平均株式数 (千株)	86,257	86,228

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式がないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

該当事項なし。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 8 月 6 日

前田道路株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古 山 和 則

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 日 野 原 克 巳

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 村 敦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている前田道路株式会社の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、前田道路株式会社及び連結子会社の平成26年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。